

**宮 城 県 の 経 済 動 向**  
**平成 2 6 年 第 1 四 半 期**  
**( 1 月 ~ 3 月 期 )**

# I 本県の経済概況

## 平成 26 年第 1 四半期（1 月～3 月期）の宮城県経済の動向

東日本大震災（以下「震災」という。）からの回復が緩やかに続いている。

- ・ 生産：震災の影響により厳しい状況にあるなかで、横ばい傾向の動きとなっている。
- ・ 住宅投資：増加傾向の動きとなっている。
- ・ 公共投資：横ばい傾向であるが弱含んでいる。
- ・ 個人消費：持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用：求人倍率は高水準で推移している。
- ・ 企業倒産：小康状態が続いている。

### 生産

鉱工業生産指数は、前期比が 2 期連続の上昇となった。前年同期比は 2 期連続の上昇となった。

大口電力使用量は、前年同期比が 8 期連続の上昇となった。

### 自動車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 2 期連続の増加となった。車種別の前年同期比は、普通車は 2 期連続の増加、小型車は 2 期連続の増加、軽自動車は 3 期連続の増加となった。

### 住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 3 期連続の減少、貸家は 9 期連続の増加、分譲住宅は 3 期連続の減少となった。

全体では 11 期連続の増加となった。

### 物価

仙台市消費者物価指数（平成 22 年＝100）は、総合指数は前期比が 5 期連続の上昇となり、前年同期比は 4 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は前期比が 4 期ぶりの下落となり、前年同期比は 4 期連続の上昇となった。

### 公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同期比は、県は 5 期ぶりの増加、国は 5 期連続の減少、市町村は 2 期連続の減少となった。

全体では 3 期ぶりの増加となった。

### 雇用

有効求人倍率（原指数）は、前年同期差が 3 期ぶりの低下となった。新規求人倍率（原指数）は、前年同期差が 17 期ぶりの低下となった。

### 大型小売店

大型小売店販売額（百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較）は、前年同期比が 7 期ぶりの増加となった。衣料品は 7 期ぶりの増加、身の回り品は 4 期ぶりの増加となった。

### 企業倒産

企業倒産は、件数は前年同期比が 2 期ぶりの減少となった。負債総額は前年同期比が 2 期ぶりの減少となった。

## Ⅱ 主な指標の動き

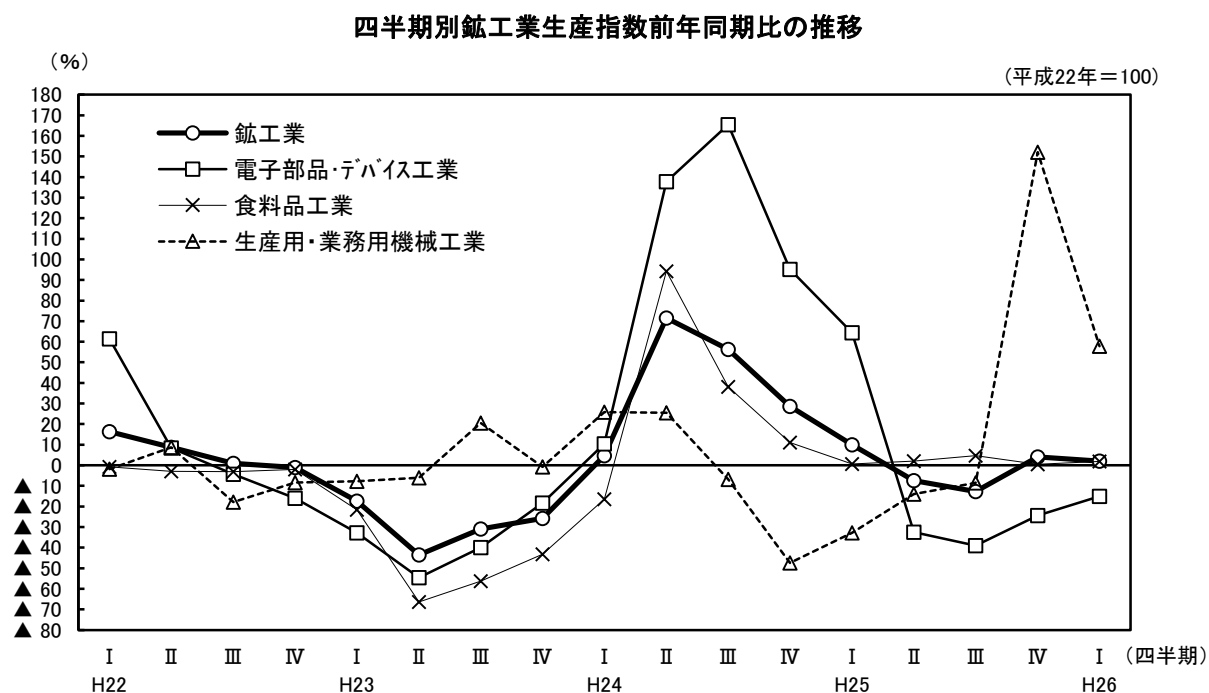
### 1 生産

#### (1) 鉱工業生産指数

平成26年第1四半期(1月～3月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は100.2(平成22年＝100)で、前期比が3.1%の上昇となり、2期連続の上昇となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前期比が18.5%の上昇となり、3期連続の上昇となった。食料品工業は前期比が9.8%の上昇となり、3期ぶりの上昇となった。生産用・業務用機械工業は前期比が9.2%の低下となり、2期ぶりの低下となった。化学、石油・石炭工業は前期比が3.4%の上昇となり、2期ぶりの上昇となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前期比が5.7%の上昇となり、3期ぶりの上昇となった。

前年同期比(原指数での比較)では2.1%の上昇となり、2期連続の上昇となった。



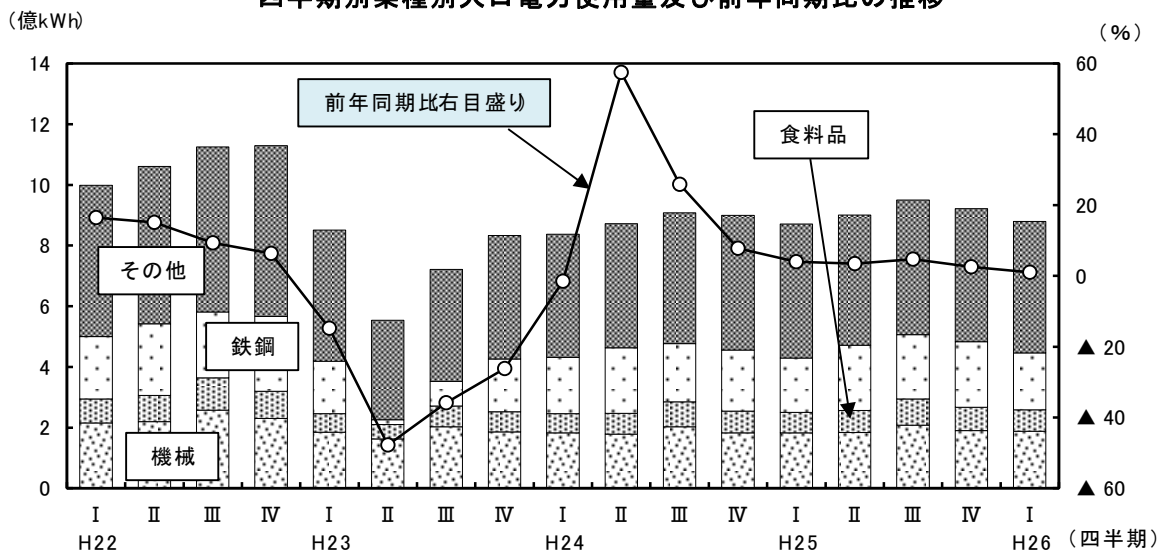
(資料:宮城県統計課)

## (2) 大口電力使用量

平成 26年第1四半期(1月～3月期)の大口電力(契約電力 500KW 以上)使用量は8億 7,979 万 KWh で、前年同期比が 1.0%の上昇となり、8期連続の上昇となった。

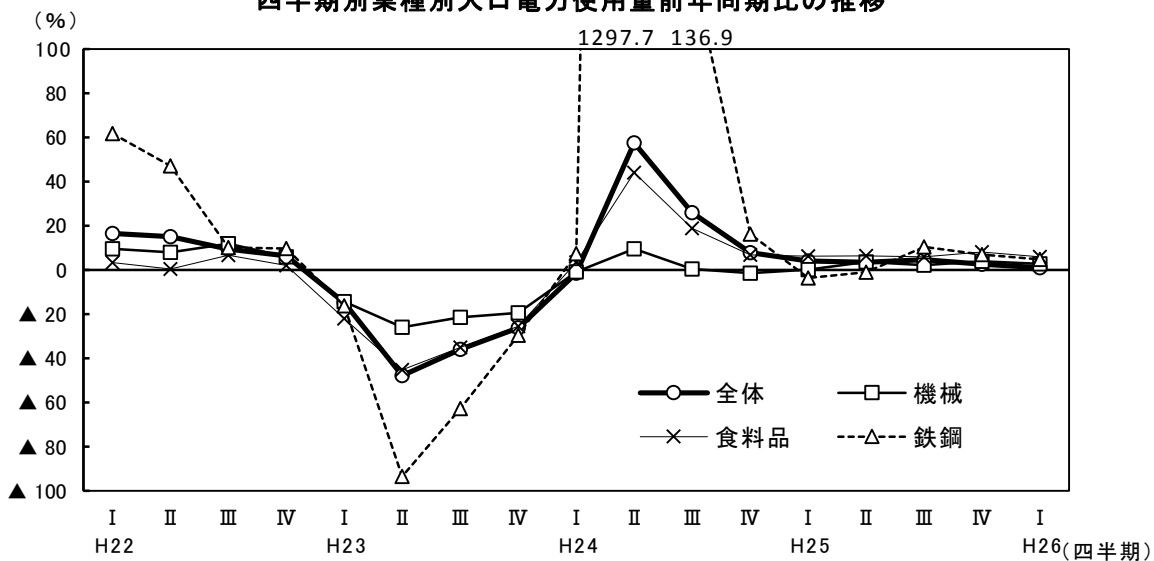
主要業種別にみると、食料品分野は前年同期比が 5.9%の上昇となり、9期連続の上昇となった。鉄鋼分野は前年同期比 4.7%の上昇となり、3期連続の上昇となった。機械分野は前年同期比が 2.7%の上昇となり、5期連続の上昇となった。

四半期別業種別大口電力使用量及び前年同期比の推移



(資料:(株)東北電力宮城支店「業務資料」)

四半期別業種別大口電力使用量前年同期比の推移



(資料:(株)東北電力宮城支店)

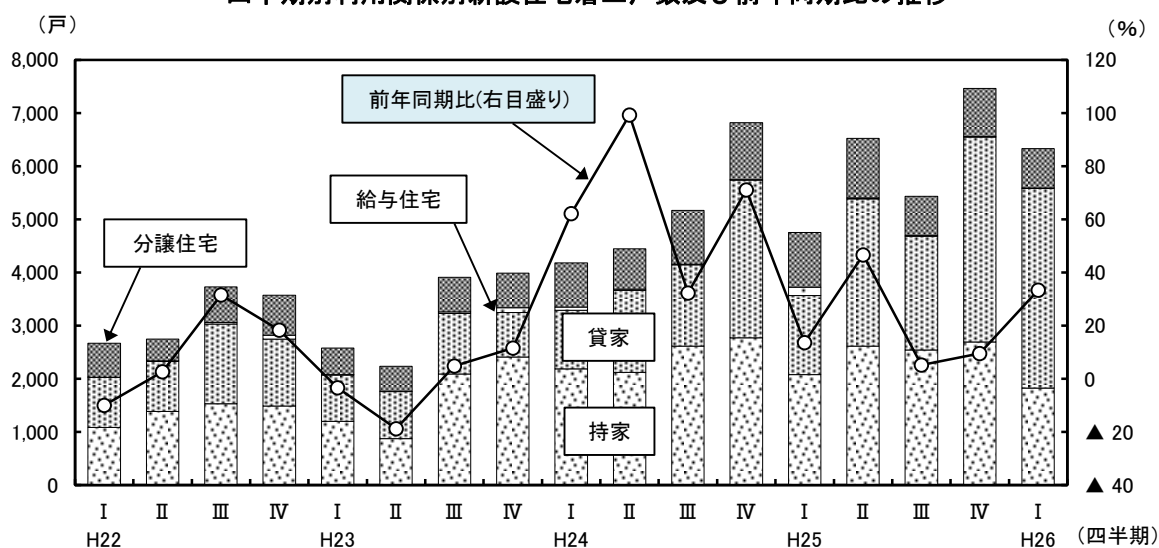
## 2 建設投資

### (1) 新設住宅着工戸数

平成 26 年第 1 四半期(1 月～3 月期)の新設住宅着工戸数は 6,332 戸で、前年同期比が 33.3%の増加となり、11 期連続の増加となった。

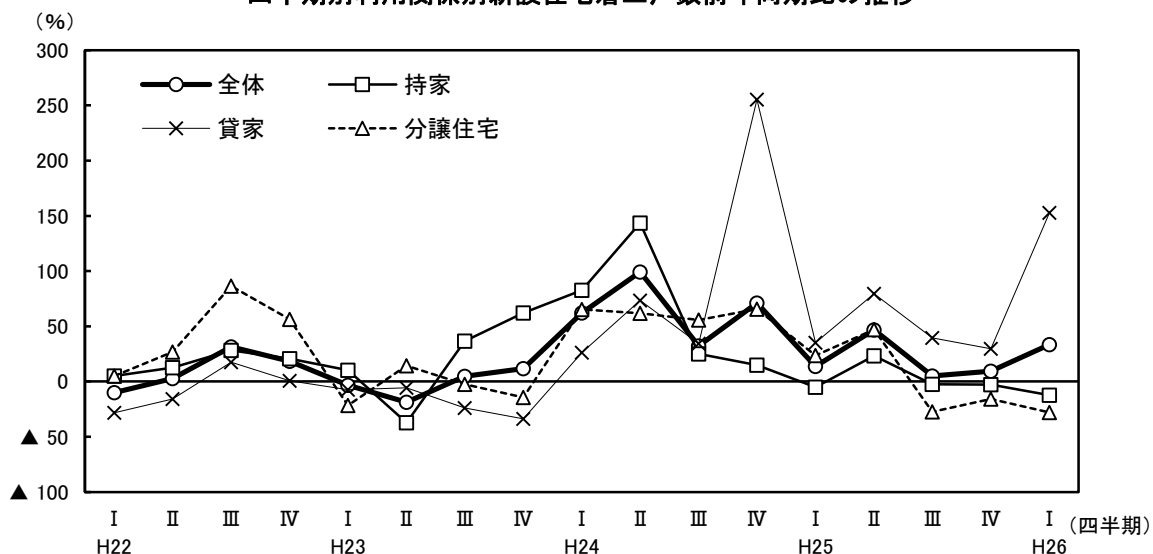
利用関係別にみると、貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が 152.9%の増加となり、9 期連続の増加となった。持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が 12.3%の減少となり、3 期連続の減少となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が 28.0%の減少となり、3 期連続の減少となった。

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数及び前年同期比の推移



(資料:国土交通省)

四半期別利用関係別新設住宅着工戸数前年同期比の推移

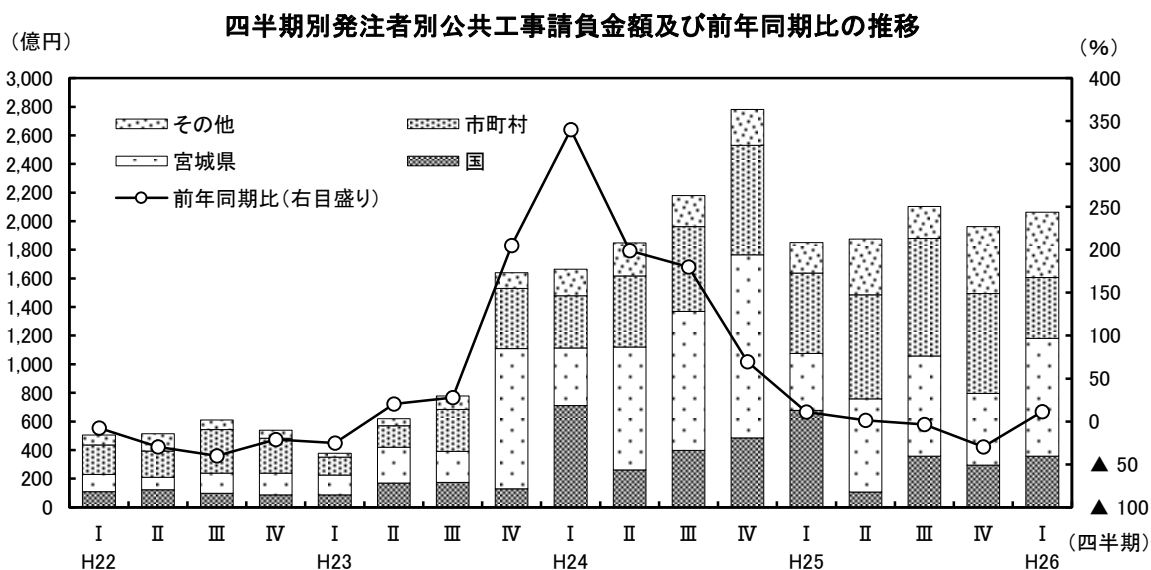


(資料:国土交通省)

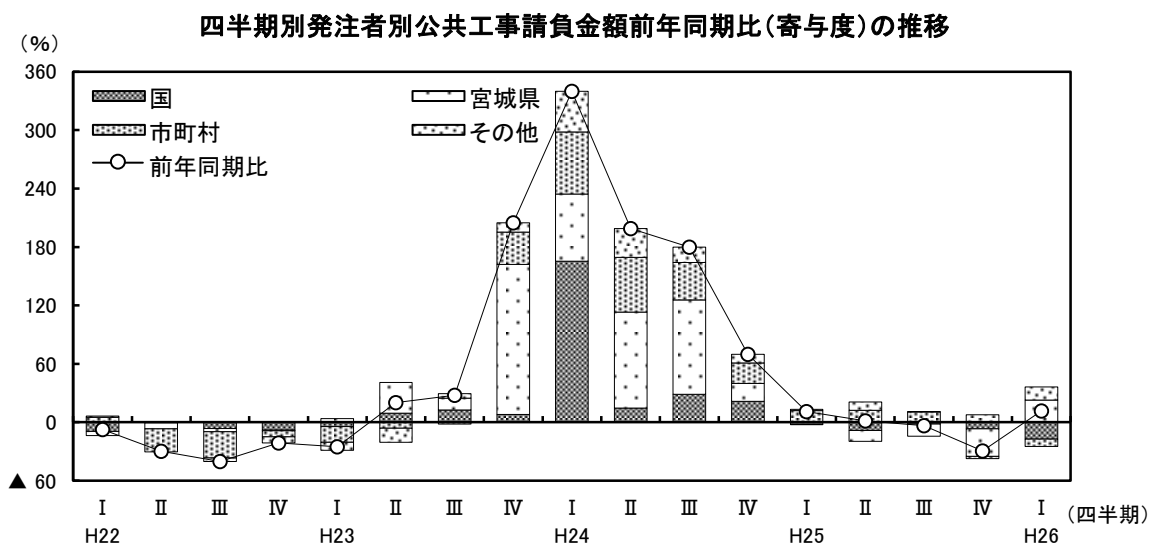
## (2) 公共工事請負金額

平成26年第1四半期(1月～3月期)の公共工事請負金額は2,062億円で、前年同期比が11.5%の増加となり、3期ぶりの増加となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が47.3%の減少となり、5期連続の減少となった。宮城県は前年同期比が106.8%の増加となり、5期ぶりの増加となった。市町村は前年同期比が24.4%の減少となり、2期連続の減少となった。



(資料: 東日本建設業保証(株))



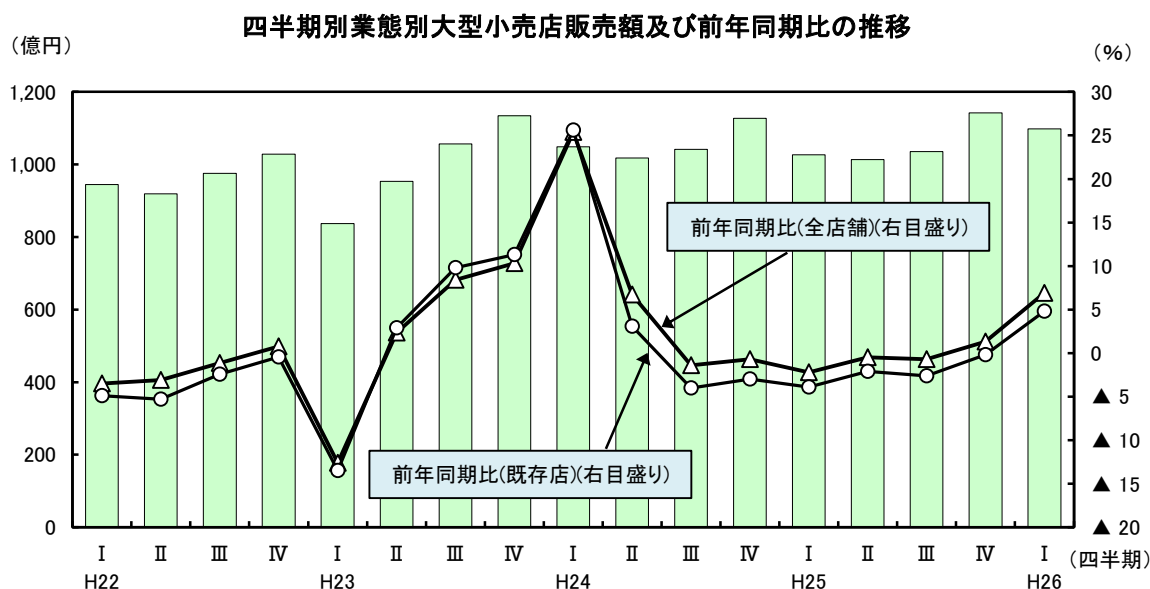
(資料: 東日本建設業保証(株))

### 3 個人消費

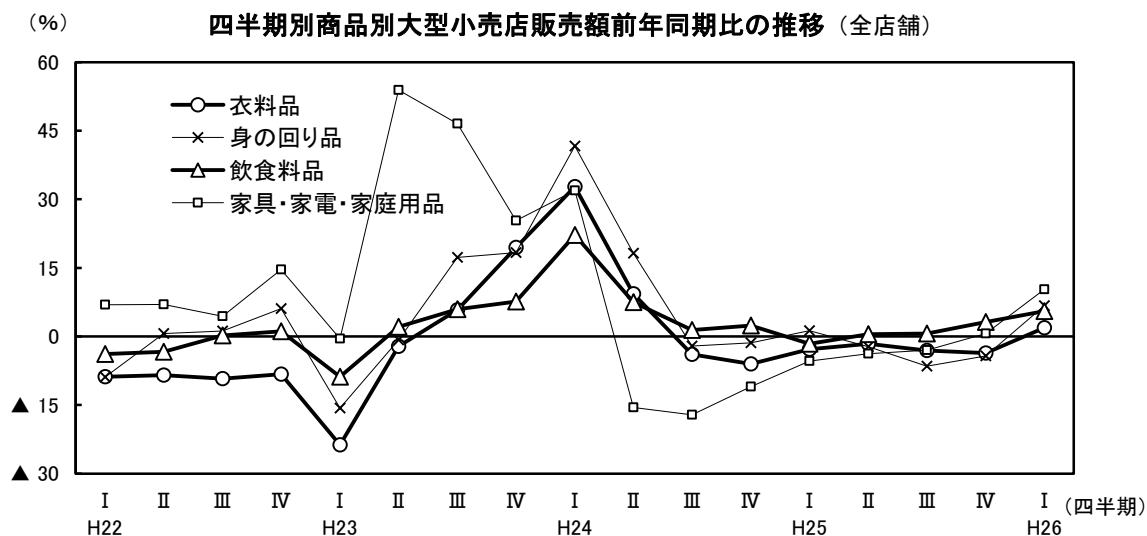
#### (1) 大型小売店販売額

平成26年第1四半期(1月～3月期)の大型小売店販売額は1,097億9,500万円で、前年同期比(既存店比較)が4.8%の増加となり、7期ぶりの増加となった。全店舗比較の前年同期比は6.9%の増加となり、2期連続の増加となった。

商品別にみると、衣料品は前年同期比が1.9%の増加となり、7期ぶりの増加となった。身の回り品は、前年同期比が6.7%の増加となり、4期ぶりの増加となった。家具・家電・家庭用品は、前年同期比が10.3%の増加となり、2期連続の増加となった。飲食料品は、前年同期比が5.5%の増加となり、4期連続の増加となった。



(資料: 東北経済産業局)



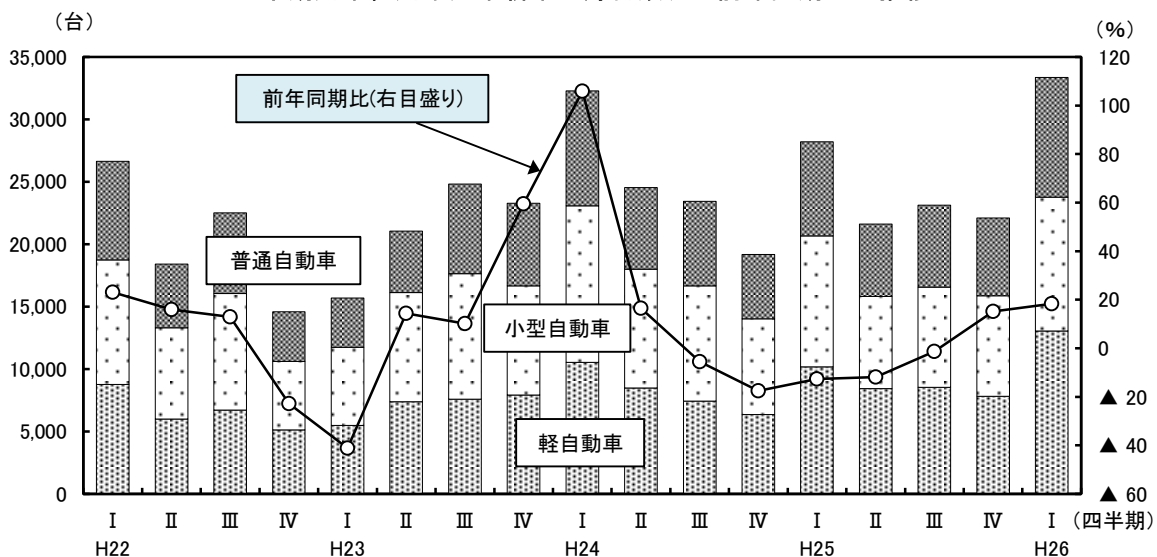
(資料: 東北経済産業局)

## (2) 乗用車新車登録台数

平成26年第1四半期(1月～3月期)の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は3万3,367台で、前年同期比が18.3%の増加となり、2期連続の増加となった。

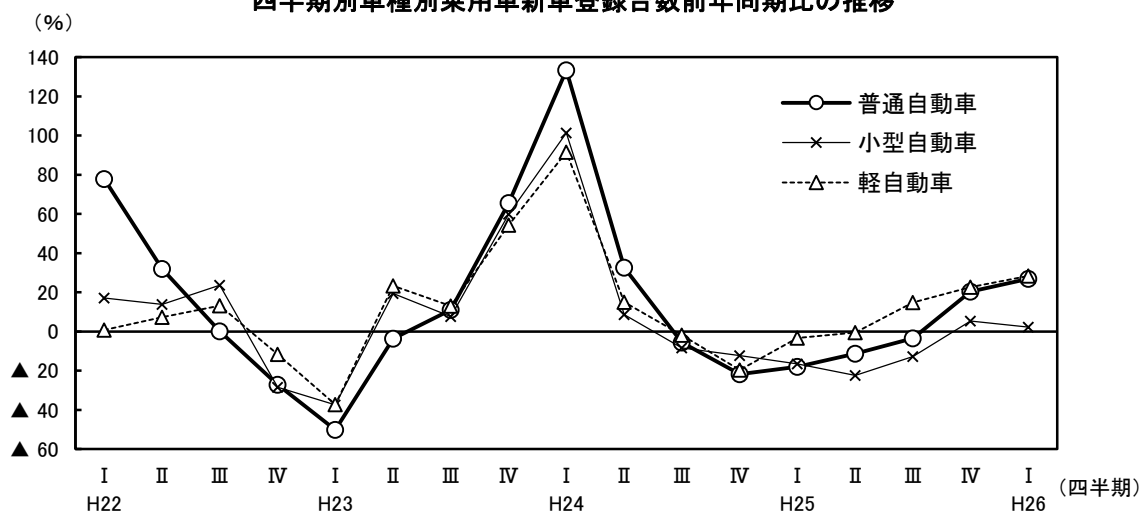
車種別にみると、普通車は前年同期比が26.9%の増加となり、2期連続の増加となった。小型車は前年同期比が2.3%の増加となり、2期連続の増加となった。軽自動車は前年同期比が28.3%の増加となり、3期連続の増加となった。

四半期別車種別乗用車新車登録台数及び前年同期比の推移



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

四半期別車種別乗用車新車登録台数前年同期比の推移



(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部,全国軽自動車協会連合会)

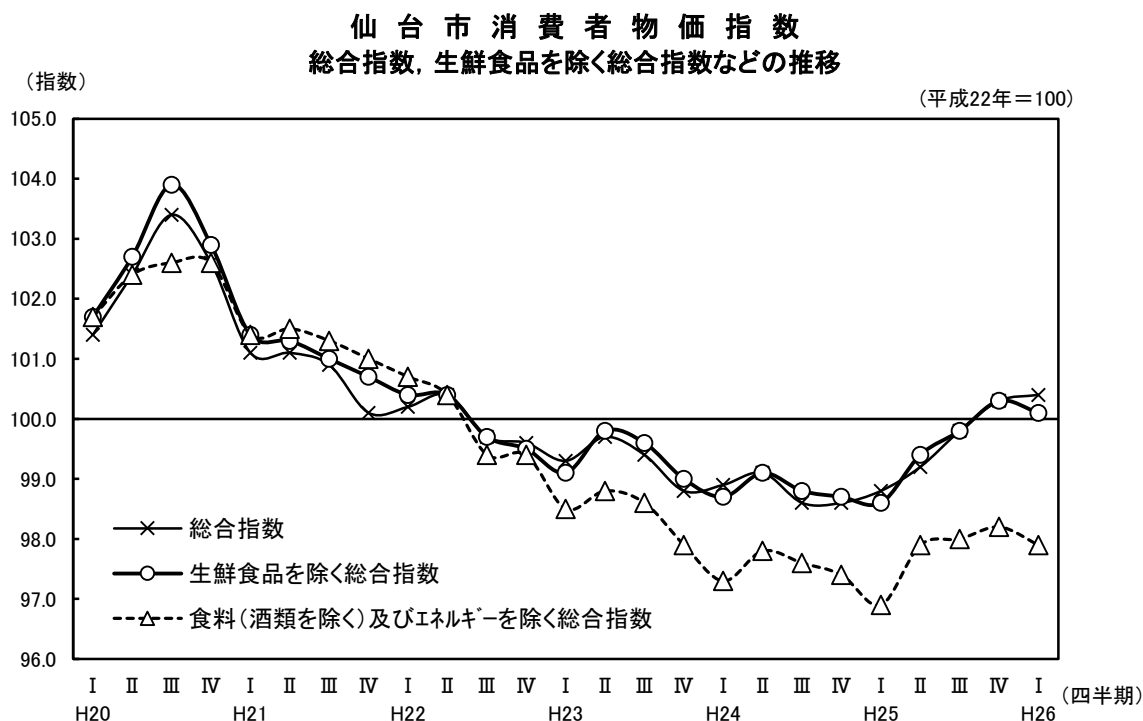


## 4 物 価

### 消費者物価指数

平成 26 年第 1 四半期(1 月～3 月期)の平均仙台市消費者物価指数(平成 22 年=100)は、総合指数は 100.4 で、前期比が 0.1%の上昇となり、5 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 100.1 で、前期比が 0.2%の下落となり、4 期ぶりの下落となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 97.9 で、前期比が 0.3%の下落となり、4 期ぶりの下落となった。

前年同期比では、総合指数は 1.6%の上昇となり、4 期連続の上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 1.5%の上昇となり、4 期連続の上昇となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は 1.0%の上昇となり、4 期連続の上昇となった。



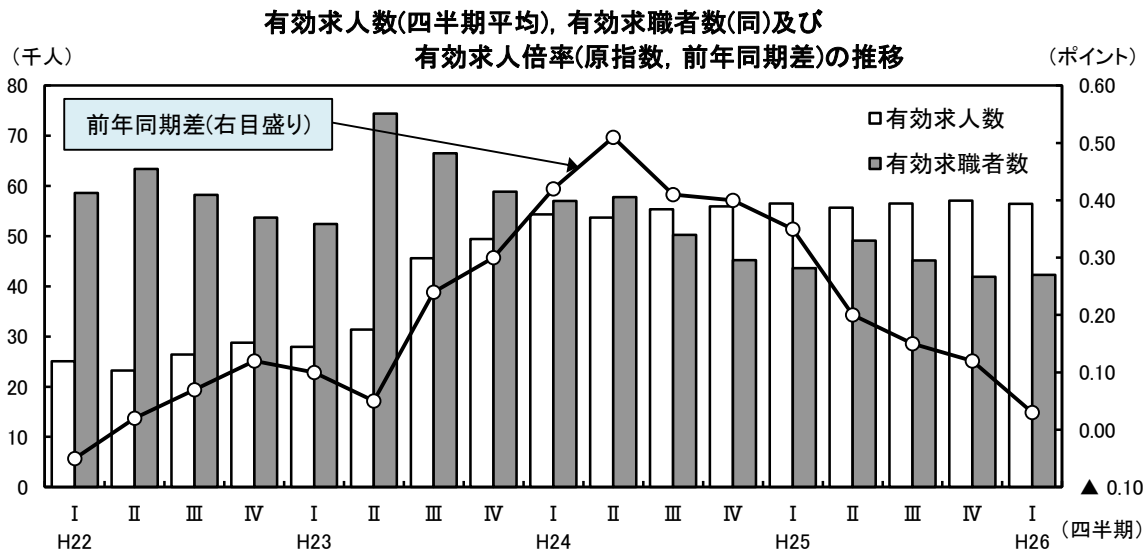
(資料:宮城県統計課)

## 5 雇 用

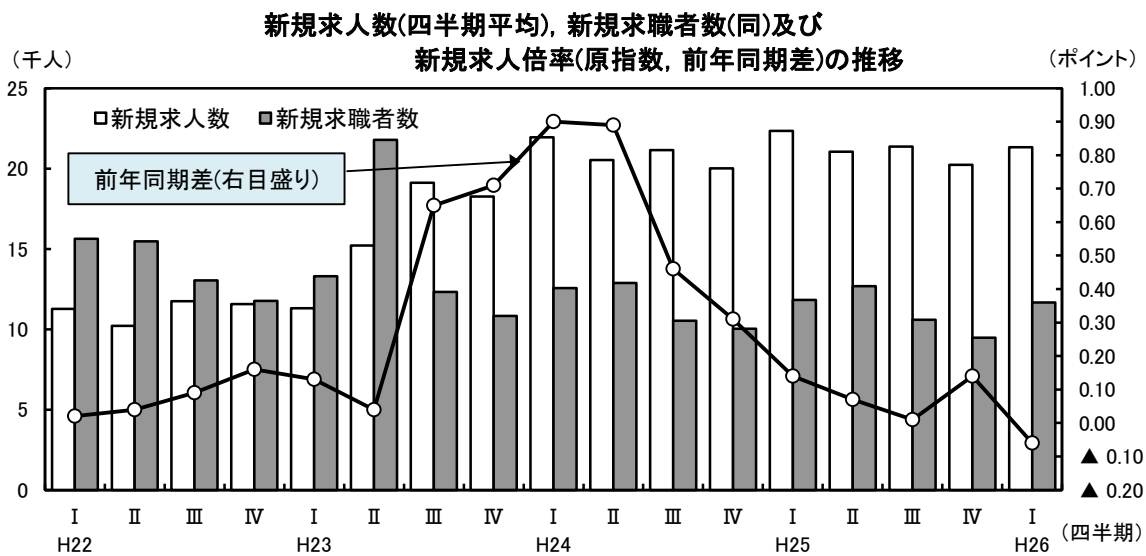
### 有効求人倍率及び新規求人倍率

平成 26 年第 1 四半期(1 月～3 月期)の有効求人人数(月平均値)は 5 万 6,408 人で、前年同期比が 0.2%の減少となった。有効求職者数(同)は 4 万 2,287 人で、前年同期比が 3.0%の減少となった。有効求人倍率(原指数)は 1.33 倍で前年同期差は、0.03 ポイント低下し、3 期ぶりの低下となった。

新規求人人数(月平均値)は 2 万 1,326 人で、前年同期比が 4.5%の減少となった。新規求職者数(同)は 1 万 1,668 人で、前年同期比が 1.4%の減少となった。新規求人倍率(原指数)は 1.83 倍で前年同期差は、0.06 ポイント低下し、17 期ぶりの低下となった。



(資料:宮城労働局)



(資料:宮城労働局)

## 6 倒産

### 企業倒産

平成26年第1四半期(1月～3月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は18件で、前年同期比が33.3%の減少となり、2期ぶりの減少となった。

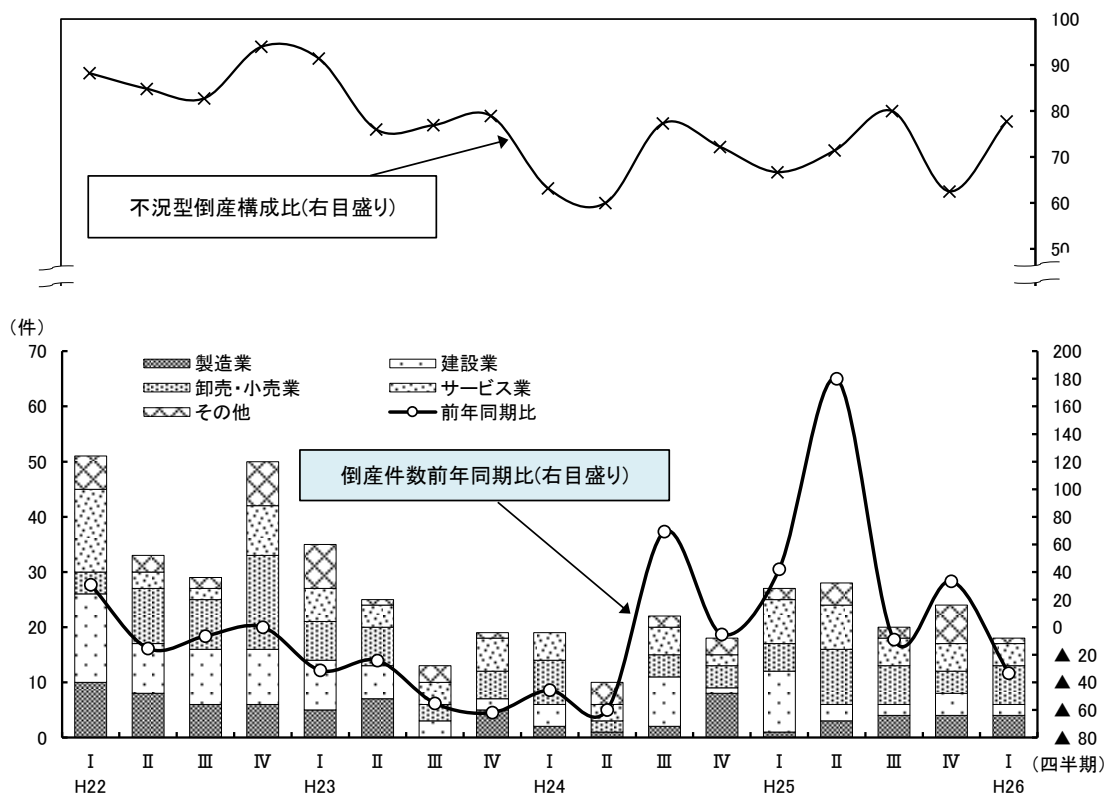
負債総額は18億3,100万円で、前年同期比が57.4%の減少となり、2期ぶりの減少となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積)の件数は14件で、2期ぶりの減少となった。件数の構成比は77.8%で、前年同期より22.2ポイントの低下となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は発生しなかった。

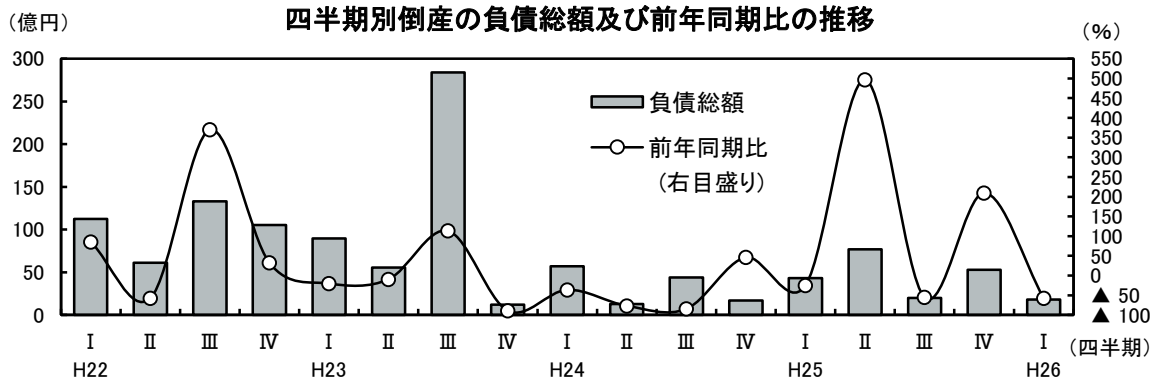
四半期別倒産件数及び前年同期比と不況型倒産構成比の推移

(%)



(資料:(株)東京商工リサーチ)

四半期別倒産の負債総額及び前年同期比の推移



(資料:(株)東京商工リサーチ)

